

表6 底質調査結果の既往値との比較

調査測線 測定物質等	東京湾－沖合			大阪湾－沖合			沖縄西方測線	
	本調査 (B測線)	日近調査 (T-B測線)	海洋汚染調査 (東京湾)	本調査 (C測線)	日近調査 (O-C測線)	海洋汚染調査 (大阪湾・紀伊水道)	本調査 (D測線)	日近調査 (D測線)
水分含有率 (%)	27.7-70.3	19.6-69.6	-	26.6-53.0	20.1-50.4	-	21.8-46.5	18.5-36.2
硫化物 (mg/g)	<0.05- 0.33	<0.01-1.1	-	<0.05	<0.01-0.28	-	<0.05-0.13	<0.01
カドミウム (μ g/g)	0.06-1.1	<0.01-2.0	0.049- 1.2	0.04-0.26	0.04-0.33	0.032-0.57	0.03-0.32	0.2-0.26
鉛 (μ g/g)	5.6-49	6.6-90	21-72	8.9-15	12-43	18-66	7.9-28	10-32
銅 (μ g/g)	5.8-51	8.6-99	37-105	15-29	9.2-43	26-78	<1.5-55	3.0-22
全水銀 (ng/g)	29-460	<5.0-710	81-620	4.2-97	9-240	90-630	5.0-210	<5.0-460
全クロム (μ g/g)	19-39	18-140	59-136	62-98	40-78	64-145	13-42	37-42
TBT ^{注1} (ng/g)	<1-42	-	-	<1-1	-	-	<1-7	-
PCB (ng/g)	0.60-26	0.9-93	2.1-60	0.74-310	0.9-1,400	2.6-54	<0.08-0.10	<0.5
ダイオキシン類 (pgTEQ/g)	0.025-7.3	(0-4.9) ^{注3}	-	0.0015-3.2	(0-4.9) ^{注3}	-	0.00015- 0.035	(0-4.9) ^{注3}

調査測線 測定物質等	響灘－沖合			富山湾－沖合		津軽海峡－日本海側沖合	
	本調査 (F測線)	日近調査 (E測線)	海洋汚染調査 (響灘)	本調査 (G測線)	海洋汚染調査 (富山湾)	本調査 (H測線)	日近調査 (A3～A4)
水分含有率 (%)	19.5-64.7	14.3-62.0		36.9-59.6	-	24.4-56	14.8-50.7
硫化物 (mg/g)	<0.05	<0.01- 0.08		<0.05	-	<0.05	<0.01
カドミウム (μ g/g)	<0.03- 0.66	0.03-0.61	0.093-0.49	<0.03-0.32	0.24-0.45	<0.03-0.21	0.02-0.06
鉛 (μ g/g)	2.8-26	7.7-32	25-50	4.2-30	30-64	4.3-23	9.5-31
銅 (μ g/g)	1.7-39	3.7-32	28-51	4.3-55	32-50	4.2-88	17-21
全水銀 (ng/g)	6.0-41	<5.0-13	50-350	8.4-70	51-130	6.0-33	6.0-41
全クロム (μ g/g)	21-110	11-76	50-78	26-82	67-75	44-95	49-170
TBT ^{注1} (ng/g)	<1	-	-	<1	-	<1	-
PCB (ng/g)	0.30-0.80	<0.5-1.2	1.5-18	0.17-0.52	1.0-8.8	<0.08-0.35	0.9-1.2
ダイオキシン類 (pgTEQ/g)	0.0002- 0.31	(0-4.9) ^{注3}	-	0.0024- 0.048	(0-4.9) ^{注3}	0.0005-0.0019	(0-4.9) ^{注3}

参考1:「日近調査」は環境庁が実施した「日本近海海洋汚染実態調査」の略称。

T-B側線は昭和60年度、O-C側線は平成6年度、D側線とE側線は平成4年度、A側線は平成元年度の調査結果を引用した。

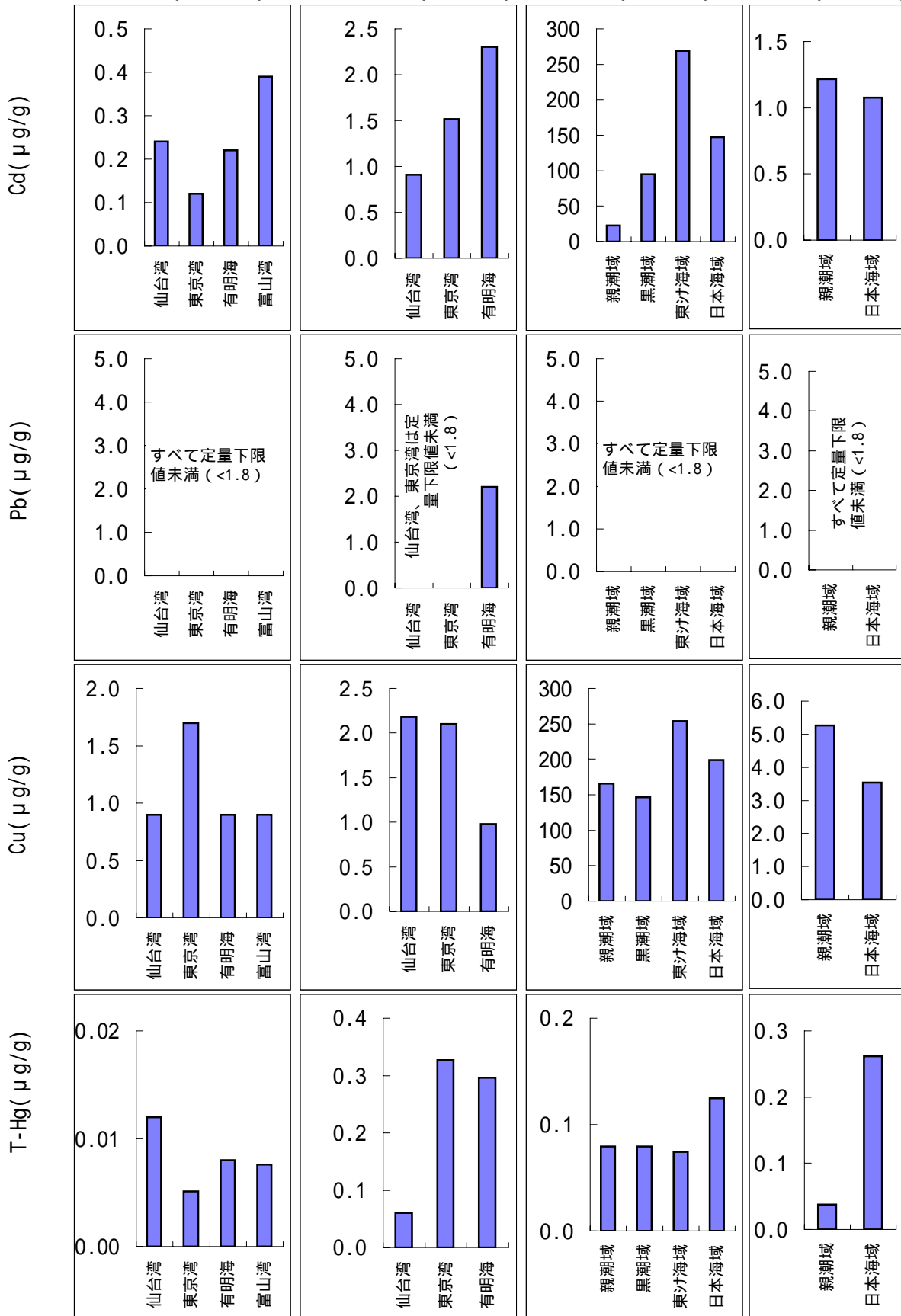
参考2:「海洋汚染調査」は海上保安庁により実施されているものであり、平成10年度の調査結果を引用した。

注1:日近調査では一部の測点においてTBTを実施しているが、検体数が少ないため、ここでは参照しなかった。

注2:PCBを含む底質の暫定除去基準値は10,000ng/gである。

注3:「平成10年度 ダイオキシン類緊急全国一斉調査結果」のうち、公共用水域底質のバックグラウンド値を参考までに示した。

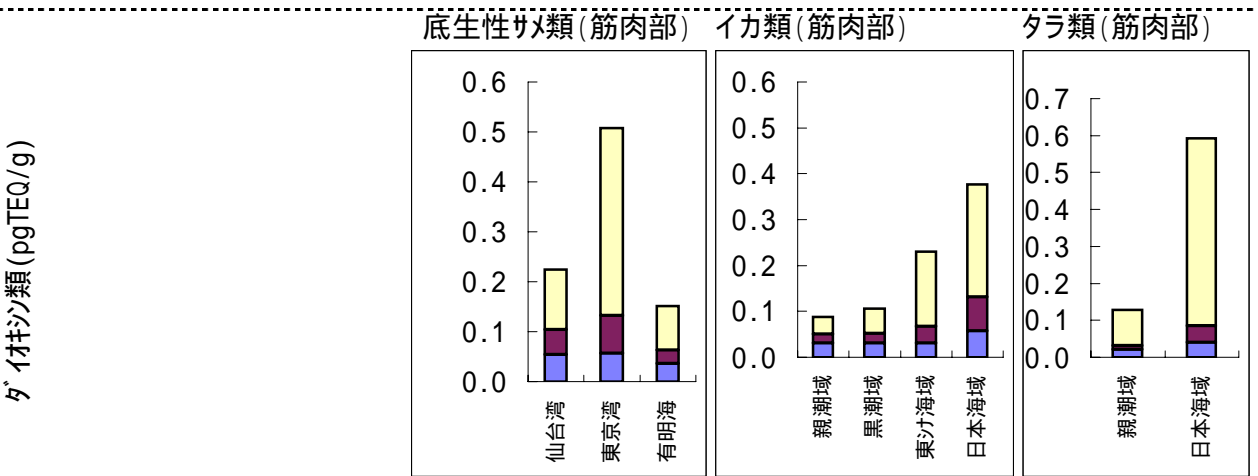
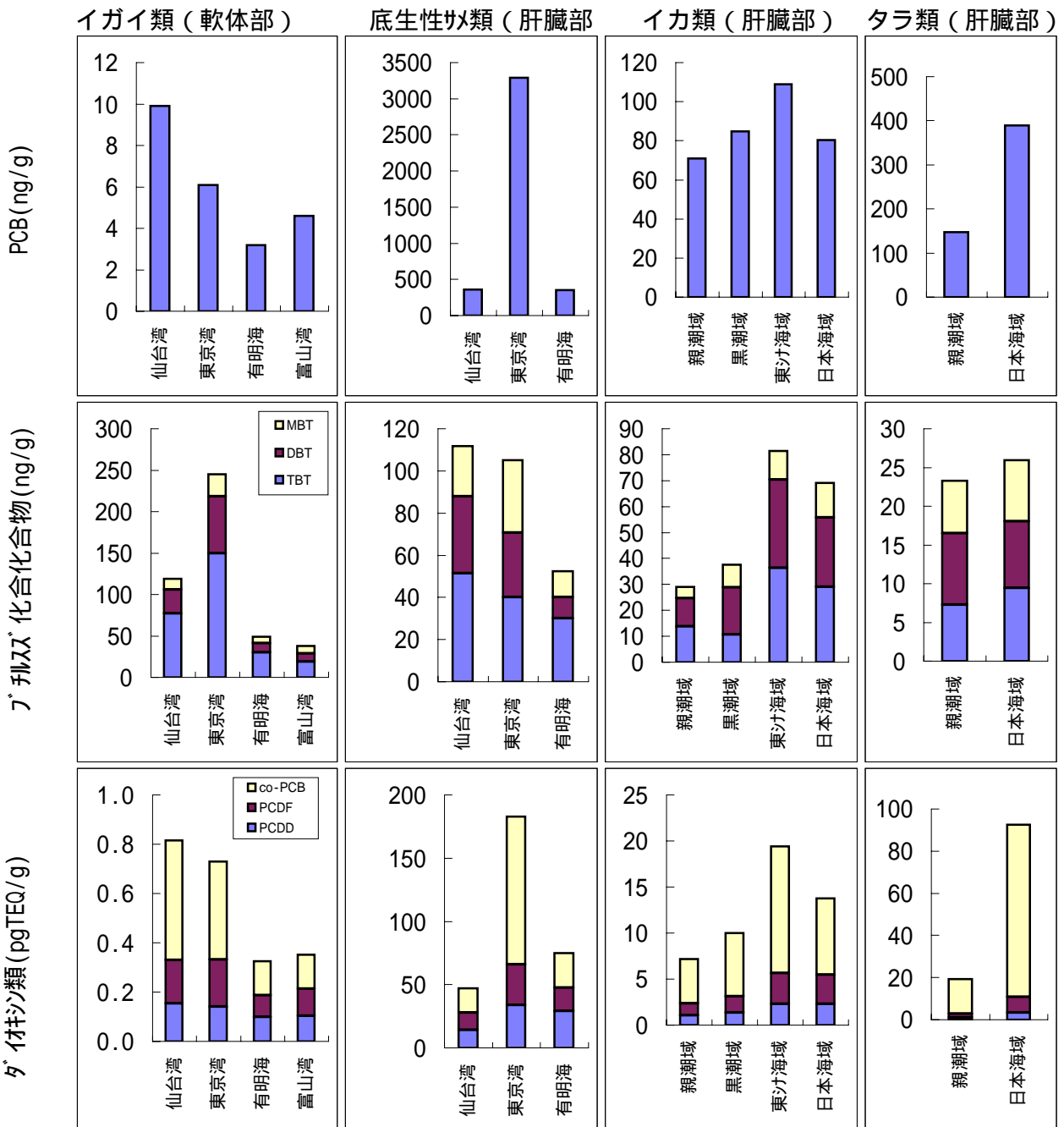
イガイ類（軟体部） 底生性サメ類（肝臓部） イカ類（肝臓部） タラ類（肝臓部）



注1：全ての調査において、イガイ類は軟体部を、底生性サメ類、イカ類、タラ類において肝臓部を測定した。

注2：底生性サメ類について富山湾のデータが示されていないのは、検体数が少ないためである。

図4(1) 生体濃度の測定結果



注1: イガイ類は軟体部を、底生性サメ類、イカ類、タラ類において肝臓部を測定した。

注2: 底生性サメ類について富山湾のデータが示されていないのは検体数が少ないためである。

注3: ダioxin類については、イガイ類は軟体部を、底生性サメ類、イカ類、タラ類においては肝臓部と筋肉部を測定した。

図4(2) 生体濃度の測定結果